

2 級工業簿記

確認テスト

目次

- 第 1 回 勘定連絡図・損益計算書
- 第 2 回 材料費
- 第 3 回 労務費
- 第 4 回 製造間接費
- 第 5 回 部門費計算～第 1 次集計～
- 第 6 回 部門費計算～第 2 次集計～
- 第 7 回 個別原価計算
- 第 8 回 総合原価計算～平均法～
- 第 9 回 総合原価計算～先入先出法～
- 第 10 回 総合原価計算～正常減損～
- 第 11 回 標準原価計算～完成品、月末仕掛品、直接材料費差異分析～
- 第 12 回 標準原価計算～直接労務費差異分析、製造間接費差異分析～
- 第 13 回 CVP 分析
- 第 14 回 直接原価計算
- 第 15 回 本社工場会計

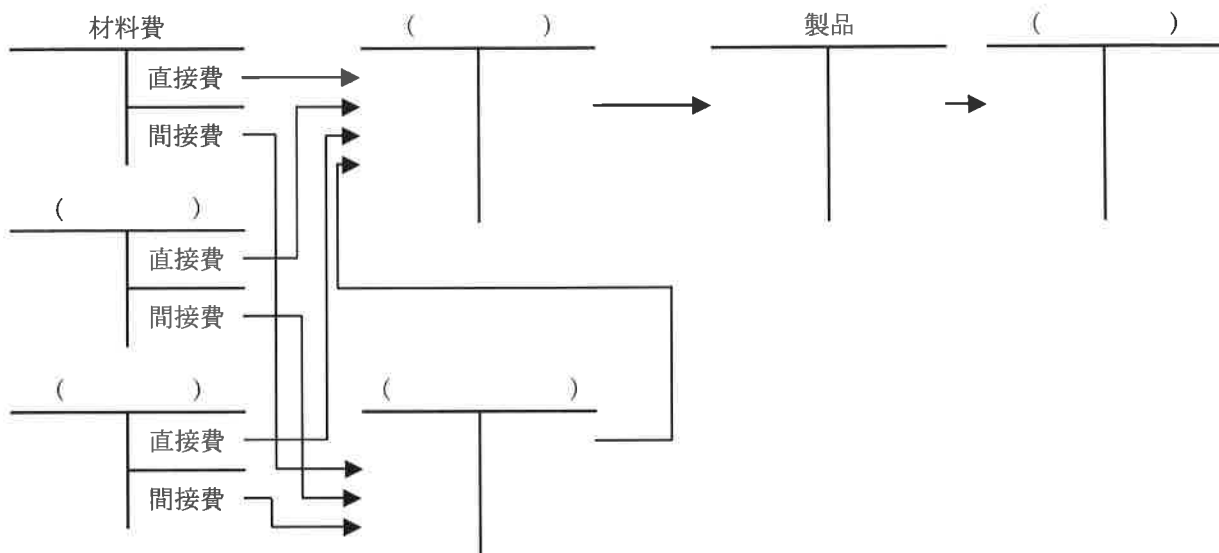
※1 回あたりの制限時間は 5 分です。

氏名 _____

簿記の教室 メイプル
2級 工業簿記
確認テスト
～ 第 1 回 ～

採点欄

1. 以下の勘定連絡図に適切な勘定名を記入しなさい。



2. 以下の製造業の損益計算書（売上総利益まで）の空欄に適切な名称を記入しなさい。

売上高		×××
売上原価		
1. 期首()棚卸高	×××	
2. 当期製品()	×××	
合計	×××	
3. 期末()棚卸高	×××	×××
売上総利益		×××

氏名 _____

簿記の教室 メイプル
2級 工業簿記
確 認 テ ス ト
～ 第 2 回 ～

採 点 欄

以下の資料にもとづいて、材料の消費に関する仕訳を行いなさい。なお、使用する勘定科目は材料、製造間接費、仕掛品とする。

(資料)

1. 月初直接材料有高 100kg @150 円
2. 当月直接材料購入高 1,400kg @120 円
3. 当月直接材料消費量 1,200kg
4. 月末直接材料実地棚卸量 295kg
5. 直接材料の払出単価の計算は平均法で行うこと

解答欄

借 方	金 額	貸 方	金 額

氏名 _____

簿記の教室 メイプル
2級 工業簿記
確 認 テ ス ト
～ 第 3 回 ～

採 点 欄

賃金給料に関する以下の各取引を仕訳しなさい。なお、使用する勘定科目は以下の中から選ぶこと。

仕 掛 品 製造間接費 賃 金 給 料 当 座 預 金 預 り 金 賃 率 差 異

1. 当月の直接工の作業時間は、直接作業が 300 時間、間接作業が 100 時間であった。なお、当工場の予定賃率は 1 時間当たり 1,000 円である。
2. 当月の直接工への支払賃金は 395,000 円であったので、所得税等の預り金 45,000 円を差し引き、残額を小切手を振出して支払った。
3. 上記の資料にもとづいて賃率差異を計上する。なお、月初の未払賃金給料は 18,000 円、月末の未払賃金給料は 30,000 円であった。

氏名 _____

簿記の教室 メイプル
2級 工業簿記
確 認 テ ス ト
～ 第 4 回 ～

採 点 欄

以下の製造間接費に関する各問に答えなさい。

1. 当工場では製造間接費に関して予定配賦を行っている。基準操業度 80,000 直接作業時間、製造間接費の予算額 40,000,000 円における予定配賦率をもとめなさい。
2. 当月の実際直接作業時間は 6,500 時間であった。予定配賦の仕訳を行いなさい。
3. 当月の製造間接費の実際発生額は 3,300,000 円であった。配賦差異の仕訳を行いなさい。

氏名 _____

簿記の教室 メイプル
2級 工業簿記
確 認 テ ス ト
～ 第 5 回 ～

採 点 欄

以下の資料にもとづいて、第1次集計後の各部門費を計算しなさい。

	合 計	切 削 部	組 立 部	動 力 部	修 繕 部	工場事務部
部門個別費	2,150,000 円	835,000 円	760,000 円	242,500 円	210,000 円	102,500 円
部門共通費；						
建物減価償却費	1,250,000 円					
福利施設負担額	870,000 円					
機 械 保 険 料	430,000 円					

配賦基準資料

占有面積	5,000 m ²	1,800 m ²	2,200 m ²	600 m ²	300 m ²	100 m ²
従業員数	36 人	12 人	12 人	6 人	3 人	3 人
機械帳簿価額	1,720,000 円	900,000 円	400,000 円	250,000 円	170,000 円	—

解答欄

	第1次集計後部門費
切 削 部	円
組 立 部	円
動 力 部	円
修 繕 部	円
工 場 事 務 部	円

氏名 _____

簿記の教室 メイプル
 2級 工業簿記
 確 認 テ ス ト
 ～ 第 6 回 ～

採 点 欄

以下の資料にもとづいて、解答欄の部門費配賦表を完成させなさい。なお、当工場は補助部門費の製造部門への配賦は直接配賦法を採用している。

用役提供割合

	合 計	切 削 部	組 立 部	動 力 部	修 繕 部	工 場 事 務 部
動力消費	3,400 kw	1,800 kw	1,200 kw	—	400 kw	—
修繕時間	1,300時間	900時間	300時間	100時間	—	—
従業員数	41 人	15 人	10 人	8 人	5 人	3 人

解答欄

部 門 費 配 賦 表

費 目	合 計	製 造 部 門		補 助 部 門		
		切 削 部	組 立 部	動 力 部	修 繕 部	工 場 事 務 部
第1次集計後部門費	1,800,000	610,000	590,000	300,000	200,000	100,000
工場事務部門費	100,000					
修繕部門費	200,000					
動力部門費	300,000					
製造部門費						

氏 名 _____

簿記の教室 メイプル
2級 工業簿記
確 認 テ ス ト
～ 第 7 回 ～

採 点 欄

以下の資料にもとづき、個別原価計算により解答欄の仕掛品勘定および製品勘定の記入を行いなさい。

【各製造指図書に関する資料】

製造指図書	直接材料費	直接労務費	製造間接費	備 考
No. 103	270,000 円	132,000 円	105,600 円	前月着手・完成・当月引渡
No. 104				
前月	200,000 円	80,000 円	64,000 円	前月着手・当月完成・引渡
当月	—	22,000 円	17,600 円	
No. 201	180,000 円	120,000 円	96,000 円	当月着手・完成・当月末未引渡
No. 202	225,000 円	45,000 円	36,000 円	当月着手・当月末未完成

解答欄

仕 掛 品

月初有高	()	当月完成高	()
直接材料費	()	月末有高	()
直接労務費	()		
製造間接費	()		
	()		()

製 品

月初有高	()	売上原価	()
当月完成高	()	月末有高	()
	()		()

氏名 _____

簿記の教室 メイプル
2級 工業簿記
確認テスト
～ 第 8 回 ～

採点欄

以下の資料にもとづいて、平均法で月末仕掛品原価と完成品総合原価を計算しなさい。

(資料)

【生産に関する資料】

月初仕掛品 200 kg (50%)
当月投入 1,800 kg
月末仕掛品 500 kg (60%)
完成品 1,500 kg

【金額に関する資料】

	原料費	加工費
月初仕掛品	198,200円	146,600円
当月投入	1,801,800円	2,553,400円

なお、()内は加工進捗度である。また、原料はすべて工程の始点で投入している。

解答欄

月末仕掛品原価	円
完成品総合原価	円

氏名 _____

簿記の教室 メイプル
2級 工業簿記
確認テスト
～ 第 9 回 ～

採点欄

以下の資料に基づいて、先入先出法で月末仕掛品原価と完成品総合原価を計算しなさい。

(資料)

【生産に関する資料】

月初仕掛品 200 kg (50%)
当月投入 1,800 kg
月末仕掛品 500 kg (60%)
完成品 1,500 kg

【金額に関する資料】

	原料費	加工費
月初仕掛品	198,200円	146,600円
当月投入	1,801,800円	2,553,400円

なお、()内は加工進捗度である。また、原料はすべて工程の始点で投入している。

解答欄

月末仕掛品原価	円
完成品総合原価	円

氏名 _____

簿記の教室 メイプル
2級 工業簿記
確認テスト
～ 第 10 回 ～

採点欄

採点欄

以下の資料にもとづいて、平均法で月末仕掛品原価と完成品総合原価を計算しなさい。なお、減損の計算方法は度外視法を採用している。

(資料)

【生産に関する資料】		【金額に関する資料】		
月初仕掛品	500 kg (20%)	原料費		加工費
当月投入	1,500 kg	月初仕掛品	95,000円	46,500円
月末仕掛品	300 kg (50%)	当月投入	315,000円	878,500円
正常減損	100 kg			
完成品	1,600 kg			

(注1) ()内は加工進捗度である。

(注2) 原料はすべて工程の始点で投入している。

(注3) 正常減損は工程の終点で発生している。

解答欄

月末仕掛品原価	円
完成品総合原価	円

氏名 _____

簿記の教室 メイプル
2級 工業簿記
確認テスト
～ 第 11 回 ～

採点欄

以下の資料にもとづいて、標準原価計算を採用している当工場における当月の完成品原価、月末仕掛品原価および直接材料費総差異をもとめなさい。なお、直接材料費総差異については内訳も明らかにしなさい。また不利な差異には借方、有利な差異には貸方と記入すること。

【標準原価カード】

製品 1 個当り			
直接材料費	200円/kg ×	8kg =	1,600円
直接労務費	1,000円/時間 ×	2時間 =	2,000円
製造間接費	1,200円/時間 ×	2時間 =	2,400円
		合 計	<u>6,000円</u>

【生産に関する資料】

月初仕掛品 200個 (75%)
 当月投入 1,200個
 月末仕掛品 400個 (50%)
 完成品 1,000個
 (注1) ()内は加工進捗度である。
 (注2) 材料はすべて工程の始点で投入されている。

【金額に関する資料】

直接材料費実際発生額 210円 × 10,000kg = 2,100,000円

解答欄

完成品原価	円
月末仕掛品原価	円
直接材料費総差異	円 () 差異
<内訳>	
数量差異	円 () 差異
価格差異	円 () 差異

氏名 _____

簿記の教室 メイプル
2級 工業簿記
確認テスト
～ 第 12 回 ～

採点欄

以下の資料にもとづいて、標準原価計算を採用している当工場における当月の直接労務費総差異、製造間接費総差異をもとめなさい。また、各総差異の内訳も明らかにしなさい。なお不利な差異には借方、有利な差異には貸方と記入すること。

【標準原価カード】

製品 1 個当り			
直接材料費	200円/kg ×	8kg =	1,600円
直接労務費	1,000円/時間 ×	2時間 =	2,000円
製造間接費	1,200円/時間 ×	2時間 =	2,400円
		合 計	<u>6,000円</u>

製造間接費の配賦基準は直接作業時間であり、月間の固定費予算額は 1,540,000 円、基準操業度は 2,200 時間である。

【生産に関する資料】

月初仕掛品 200個 (75%)
 当月投入 1,200個
 月末仕掛品 400個 (50%)
 完 成 品 1,000個
 (注1) ()内は加工進捗度である。
 (注2) 材料はすべて工程の始点で投入されている。

【金額に関する資料】

直接労務費実際発生額 980円 × 2,150時間 = 2,107,000円
 製造間接費実際発生額 2,700,000円

解答欄

直接労務費総差異	円()差異	製造間接費総差異	円()差異
<内訳>		<内訳>	
時 間 差 異	円()差異	予 算 差 異	円()差異
賃 率 差 異	円()差異	変動費能率差異	円()差異
		固定費能率差異	円()差異
		操 業 度 差 異	円()差異

氏名 _____

簿記の教室 メイプル
2級 工業簿記
確 認 テ ス ト
～ 第 13 回 ～

採 点 欄

1. 以下の資料にもとづいて、CVP分析に関する各問に答えなさい。

【資料】

販売単価 1,000 円 製品単位あたり変動費 800 円 固定費 800,000 円

(1) 損益分岐点における販売数量をもとめなさい。

(2) 目標営業利益を 1,200,000 円とした場合の販売数量をもとめなさい。

(3) 現在の売上高を 10,000,000 円、損益分岐点の売上高を 4,000,000 円とした場合の安全余裕率をもとめなさい。

2. 以下の 6 ヶ月間の原価データにもとづいて、高低点法により製品単位あたりの変動費と月間の固定費をもとめなさい。

【6 ヶ月間の原価データ】

月	生産量	原価発生額
1 月	2,035個	2,758,000円
2 月	1,850個	2,684,000円
3 月	2,400個	2,960,000円
4 月	2,201個	2,840,000円
5 月	2,380個	2,912,000円
6 月	1,600個	2,640,000円

製品単位あたり変動費	円	月間の固定費	円
------------	---	--------	---

氏名 _____

以下の資料にもとづいて、直接原価計算の損益計算書と全部原価計算の損益計算書を作成しなさい。また、固定費調整も行いなさい。

【資料】

販売単価 5,000 円 製品単位あたり変動製造原価 3,000 円 変動販売費 500 円

固定製造原価 5,000,000 円 固定販売費及び一般管理費 2,000,000 円

期首製品数量 2,000 個 当期生産量 10,000 個 当期販売量 8,000 個

期末製品数量 4,000 個

全部原価計算の場合における期首製品に含まれる固定製造原価 1,000,000 円

(注) 製品の払出単価の計算は、先入先出法による。

解答欄

直接原価計算の損益計算書

売上高	()
変動売上原価	()
変動製造マージン	()
変動販売費	()
貢献利益	()
固定費	()
営業利益	()

全部原価計算の損益計算書

売上高	()
売上原価	()
売上総利益	()
販売費及び一般管理費	()
営業利益	()

固定費調整

直接原価計算の営業利益	()
期末製品に含まれる固定製造原価	()
期首製品に含まれる固定製造原価	()
全部原価計算の営業利益	()

氏名 _____

簿記の教室 メイプル
2級 工業簿記
確認テスト
～ 第 15 回 ～

採点欄

次の取引について、工場会計を独立させているときの工場側の仕訳を行いなさい。なお、工場側に設けられている勘定は、材料、製造間接費、仕掛品、本社である。

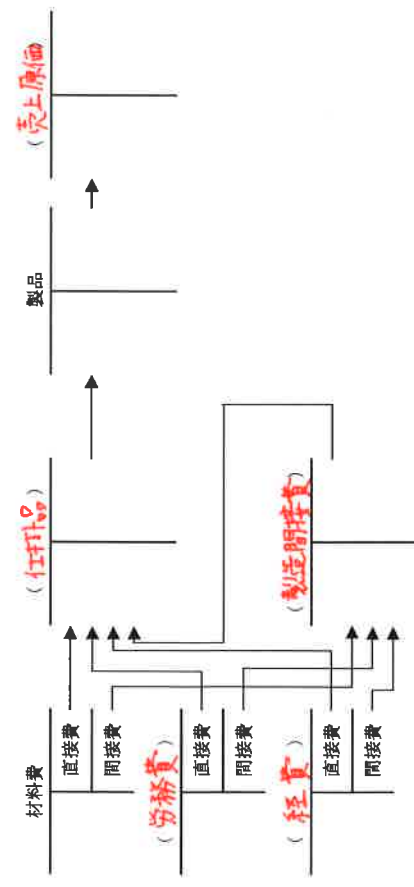
1. 材料 500,000 円を掛で購入した。
2. 直接材料として 350,000 円、間接材料として 100,000 円を出庫した。
3. 直接工賃金 280,000 円、間接工賃金 120,000 円を消費した。なお、直接工は直接作業のみ行っている。
4. 当月の工場の減価償却費は 180,000 円であった。
5. 完成品 460,000 円を本社の製品倉庫に納入した。

氏名 _____

簿記の教室 メイプル
2級 工業簿記
確認テスト
～ 第 1 回 ～

採点欄

1. 以下の勘定連絡図に適当な勘定名を記入しなさい。



2. 以下の製造業の損益計算書（売上総利益まで）の空欄に適当な名称を記入しなさい。

売上高		
売上原価		×××
1. 期首(製品)棚卸高	×××	
2. 当期製品(製造原価)	×××	
合計	×××	
3. 期末(製品)棚卸高	×××	×××
売上総利益		×××

氏名

簿記の教室 メイブル
2級 工業簿記
確認テスト
～ 第2回～

採点欄

以下の資料にもとづいて、材料の消費に関する仕訳を行いなさい。なお、使用する勘定科目は材料、製造間接費、仕掛品とする。

(資料)

1. 月初直接材料有高 100kg @150 円
2. 当月直接材料購入高 1,400kg @120 円
3. 当月直接材料消費量 1,200kg
4. 月末直接材料実地棚卸量 295kg
5. 直接材料の払出単価の計算は平均法で行うこと

解答欄

借方	金額	貸方	金額
仕掛品	146,400	材料	147,010
製造間接費	610		

材料 (平均)		仕掛品	
100kg @150	1,200kg @122	146,400	
15,000	146,400		
1,400kg @120	相成5kg @122		
	610		
168,000	295kg @122		
	35,990		
1,500kg			
183,000 円			
@122			

氏名

簿記の教室 メイブル
2級 工業簿記

確認テスト
～ 第3回～

採点欄

賃金給料に関する以下の各取引を仕訳しなさい。なお、使用する勘定科目は以下の中から選ぶこと。

仕掛品 製造間接費 賃金給料 当座預金 預り金 賃率差異

1. 当月の直接工の作業時間は、直接作業が300時間、間接作業が100時間であった。なお、当工場の予定賃率は1時間当たり1,000円である。

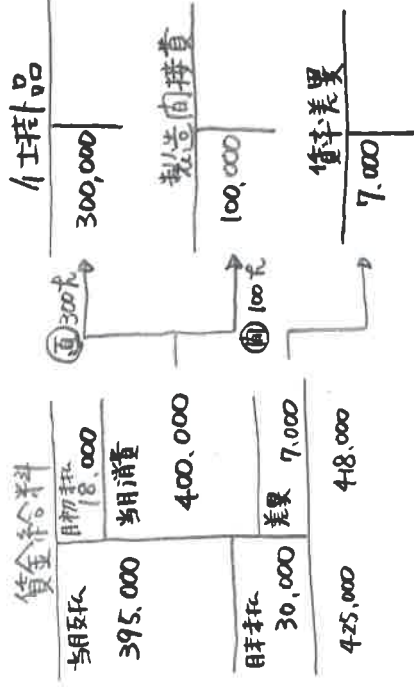
仕掛品 300,000 賃金給料 400,000
 製造間接費 100,000

2. 当月の直接工への支払賃金は395,000円であったので、所得税等の預り金45,000円を差し引き、残額を小切手を振出して支払った。

賃金給料 395,000 預り金 45,000
 当座預金 350,000

3. 上記の資料にもとづいて賃率差異を計上する。なお、月初の未払賃金給料は18,000円、月末の未払賃金給料は30,000円であった。

賃率差異 7,000 賃金給料 7,000



氏名

簿記の教室 マイプル
2級 工業簿記
確認テスト
～ 第4回～

採点欄

以下の製造間接費に関する各問に答えなさい。

1. 当工場では製造間接費に関して予定配賦を行っている。標準操業度 80,000 直接作業時間、製造間接費の予算額 40,000,000 円における予定配賦率をもとめなさい。
500 円/人
2. 当月の実際直接作業時間は 6,500 時間であった。予定配賦の仕訳を行いなさい。
仕掛品 3,250,000 製造間接費 3,250,000
3. 当月の製造間接費の実際発生額は 3,300,000 円であった。配賦差異の仕訳を行いなさい。
製造間接費 50,000 製造間接費 50,000

＜予定配賦の解法手順＞

1. 予定配賦率を求める。

$$\text{予定配賦率} = \frac{\text{製造間接費予算}}{\text{標準操業度}} = \frac{40,000,000 \text{円}}{80,000 \text{人}} = \underline{\underline{500 \text{円}}}$$

2. 予定配賦額を求める。

$$\text{予定配賦額} = \text{予定配賦率} \times \text{実際操業度} \\ = 500 \text{円} \times 6,500 \text{人} = \underline{\underline{3,250,000 \text{円}}}$$

3. 製造間接費配賦差異を求める。

製造間接費	
① 借	② 貸
3,300,000	3,250,000
差異 50,000	
	製造間接費配賦差異 50,000

氏名 _____

簿記の教室 メイブル
2級 工業簿記
確認テスト
～ 第5回～

採点欄

以下の資料にもとづいて、第1次集計後の各部門費を計算しなさい。

部門個別費	2,150,000円	合計	切削部	組立部	動力部	修繕部	工場事務部
部門共通費:			835,000円	760,000円	242,500円	210,000円	102,500円
建物減価償却費	1,250,000円						
福利施設負担額	870,000円						
機械保険料	430,000円						
配賦基準資料							
占有面積	5,000㎡		1,800㎡	2,200㎡	600㎡	300㎡	100㎡
従業員数	36人		12人	12人	6人	3人	3人
機械帳簿価額	1,720,000円		900,000円	400,000円	250,000円	170,000円	—

解答欄

第1次集計後部門費	
切削部	1,800,000円
組立部	1,700,000円
動力部	600,000円
修繕部	400,000円
工場事務部	200,000円

①	102,500	25,000	72,500	—	200,000
②	210,000	95,000	72,500	42,500	470,000
③	242,500	150,000	145,000	62,500	600,000
④	760,000	550,000	290,000	100,000	1,700,000
⑤	835,000	450,000	290,000	225,000	1,800,000
合計	2,150,000	1,250,000	870,000	430,000	4,700,000

部・個
部・共
建・減
福・負
機・保

氏名 _____

簿記の教室 マイブル
2級 工業簿記
確認テスト
～ 第6回～

採点欄

以下の資料にもとづいて、解答欄の部門費配賦表を完成させなさい。なお、当工場は補助部門費の製造部門への配賦は直接配賦法を採用している。

用役提供割合

	合計	切削部	組立部	動力部	修繕部	工場事務部
動力消費	3,400 kw	1,800 kw	1,200 kw	—	400 kw	—
修繕時間	1,300時間	900時間	300時間	100時間	—	—
従業員数	41人	15人	10人	8人	5人	3人

解答欄

部門費配賦表

費目	合計	製造部門			補助部門		
		切削部	組立部	動力部	修繕部	工場事務部	
第1次集計後部門費	1,800,000	610,000	590,000	300,000	200,000	100,000	
工場事務部門費	100,000	60,000	40,000				
修繕部門費	200,000	150,000	50,000				
動力部門費	300,000	180,000	120,000				
製造部門費	1,800,000	1,000,000	800,000				

動力部門費

(切) $\frac{300,000\text{円}}{1,800\text{kw} + 1,200\text{kw}} \times 1,800\text{kw} = 180,000\text{円}$

(組) $\frac{300,000\text{円}}{1,800\text{kw} + 1,200\text{kw}} \times 1,200\text{kw} = 120,000\text{円}$

工場事務部門費

(切) $\frac{200,000\text{円}}{900\text{h} + 300\text{h}} \times 900\text{h} = 150,000\text{円}$

(組) $\frac{200,000\text{円}}{900\text{h} + 300\text{h}} \times 300\text{h} = 50,000\text{円}$

工場事務部門費

(切) $\frac{100,000\text{円}}{15\text{人} + 10\text{人}} \times 15\text{人} = 60,000\text{円}$

(組) $\frac{100,000\text{円}}{15\text{人} + 10\text{人}} \times 10\text{人} = 40,000\text{円}$

氏名

簿記の教室 メイプル
2級 工業簿記
確認テスト
～ 第 7 回 ～

採点欄

以下の資料にもとづき、個別原価計算により解答欄の仕掛品勘定および製品勘定の記入を行いなさい。

【各製造指図書に関する資料】

製造指図書	直接材料費	直接労務費	製造間接費	備考
No. 103	270,000 円	132,000 円	105,600 円	前月着手・完成・当月引渡
No. 104	200,000 円	80,000 円	64,000 円	前月着手・当月完成・引渡
前月 当月	—	22,000 円	17,600 円	
No. 201	180,000 円	120,000 円	96,000 円	当月着手・完成・当月未引渡
No. 202	225,000 円	45,000 円	36,000 円	当月着手・当月未引渡

解答欄

仕掛品

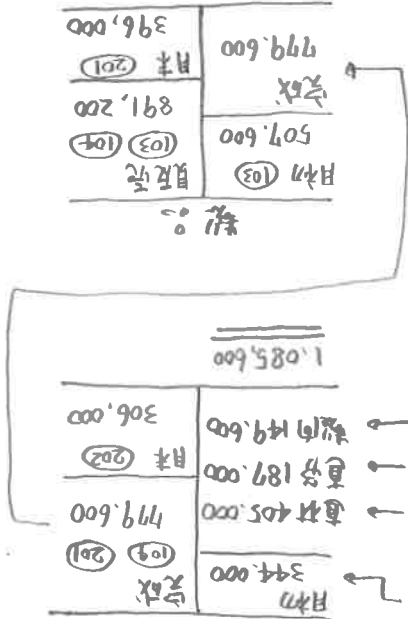
月初有高	(344,000)	当月完成高	(779,600)
直接材料費	(405,000)	月末有高	(306,000)
直接労務費	(187,000)		
製造間接費	(149,600)		
	(1,085,600)		(1,085,600)

製品

月初有高	(507,600)	売上原価	(891,200)
当月完成高	(779,600)	月末有高	(396,000)
			(1,287,200)

品名	仕掛品	製品	当月投入	直材	直労	製間	合計	備考
103	—	—	—	—	—	—	—	前月着手 当月完成 当月引渡 507,600
104	—	—	—	—	—	—	—	前月着手 当月完成 当月引渡 891,200
201	—	—	—	—	—	—	—	前月着手 当月完成 当月引渡 779,600
202	—	—	—	—	—	—	—	前月着手 当月完成 当月引渡 396,000
合計	344,000	344,000	—	—	—	—	1,085,600	
	—	—	—	—	—	—	—	当月着手 当月完成 未引渡 306,000
	—	—	—	—	—	—	—	当月着手 当月完成 未引渡 396,000
	—	—	—	—	—	—	—	前月着手 当月完成 当月引渡 507,600
	—	—	—	—	—	—	—	前月着手 当月完成 当月引渡 891,200
	—	—	—	—	—	—	—	前月着手 当月完成 当月引渡 779,600
	—	—	—	—	—	—	—	前月着手 当月完成 当月引渡 396,000

月初仕掛品
当月投入
直材
直労
製間
合計
備考



氏名 _____

簿記の教室 メイブル
2級 工業簿記

確認テスト
～ 第 8 回 ～

採点欄

以下の資料にもとづいて、平均法で月末仕掛品原価と完成品総合原価を計算しなさい。

(資料)

【生産に関する資料】

月初仕掛品 200 kg (50%)
当月投入 1,800 kg
月末仕掛品 500 kg (60%)
完成品 1,500 kg

【金額に関する資料】

原料費 198,200円
月初仕掛品 198,200円
当月投入 1,801,800円
加工費 146,600円
月末仕掛品 2,553,400円

なお、()内は加工進捗度である。また、原料はすべて工程の始点で投入している。

解答欄

月末仕掛品原価	950,000	円
完成品総合原価	3,750,000	円

生産データ

200	100	1,500	1,500
1,800	1,700	500	300
			(1,800)

(平均法)

	数量	原料費	加工費	合計
月初仕掛品	200	198,200	146,600	
当月投入	1,800	1,801,800	2,553,400	
合計	2,000	2,000,000	2,700,000	950,000
月末仕掛品	500	(500,000)	(450,000)	
完成	1,500	(1,500,000)	2,250,000	3,750,000

氏名

簿記の教室 メイブル
2級 工業簿記

確認テスト
～ 第9回～

採点欄

生産データ

200	100	1,500	1,500
1,800	1,700	500	300
			(1,800)

以下の資料に基づいて、先入先出法で月末仕掛品原価と完成品総合原価を計算しなさい。

(資料)

【生産に関する資料】

月初仕掛品	200 kg	(50%)
当月投入	1,800 kg	
月末仕掛品	500 kg	(60%)
完成品	1,500 kg	

【金額に関する資料】

原料費	加工費
月初仕掛品 198,200円	146,600円
当月投入 1,801,800円	2,553,400円

なお、()内は加工進捗度である。また、原料はすべて工程の始点で投入している。

解答欄

月末仕掛品原価	951,100	円
完成品総合原価	3,748,900	円

(先入先出法)

当月投入	数量	原料費	加工費	合計
月初仕掛品	1,800	1,801,800	1,700	2,553,400
差引	500	(500,500)	300	(450,600)
月初仕掛品	1,300	1,301,300	1,400	2,102,800
完成	200	198,200	100	146,600
	1,500	(1,499,500)	1,500	(2,249,400)
				3,748,900

氏名

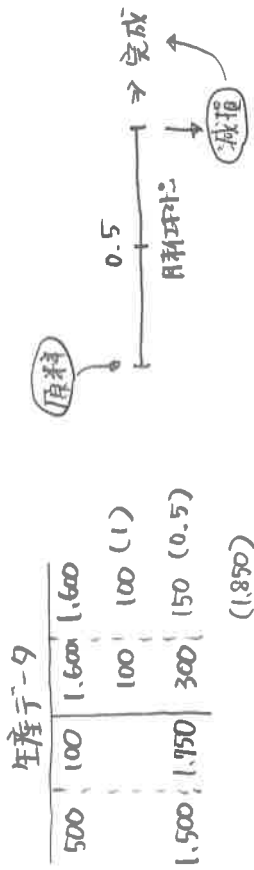
簿記の教室 マイブル

2級 工業簿記

確認テスト

～ 第 10 回 ～

採点欄



以下の資料にもとづいて、平均法で月末仕掛品原価と完成品総合原価を計算しなさい。なお、減損の計算方法は度外根法を採用している。

(資料)

【生産に関する資料】

月初仕掛品	500 kg	(20%)
当月投入	1,500 kg	
月末仕掛品	300 kg	(50%)
正常減損	100 kg	
完成品	1,600 kg	

(注1) ()内は加工進捗率である。
 (注2) 原料はすべて工程の始点で投入している。
 (注3) 正常減損は工程の終点で発生している。

【金額に関する資料】

原料費	加工費
月初仕掛品 95,000円	46,500円
当月投入 315,000円	878,500円

(平均法)

数量	原料量	加工換算量	加工費	合計
月初仕掛品 500	95,000	100	46,500	
当月投入 1,500	315,000	1,750	878,500	
合計 2,000	410,000	1,850	925,000	136,500
月末仕掛品 300	61,500	150	75,000	
正常減損 100	—	100	—	
完成 1,600	348,500	1,700	850,000	1,198,500
	—	100	—	
	348,500	1,600	850,000	

解答欄

月末仕掛品原価	136,500	円
完成品総合原価	1,198,500	円

氏名

簿記の教室 メイブル
2級 工業簿記
確認テスト
～ 第 11 回 ～

採点欄

以下の資料にもとづいて、標準原価計算を採用している当工場における当月の完成品原価、月末仕掛品原価および直接材料費総差異をもとめなさい。なお、直接材料費総差異については内訳も明らかにしなさい。また不利な差異には借方、有利な差異には貸方と記入すること。

【標準原価カード】

製品 1 個当り			
直接材料費	200円/kg × 8kg =	1,600円	
直接労務費	1,000円/時間 × 2時間 =	2,000円	
製造間接費	1,200円/時間 × 2時間 =	2,400円	
	合計	6,000円	

【生産に関する資料】

月初仕掛品	200個 (75%)
当月投入	1,200個
月末仕掛品	400個 (50%)
完成品	1,000個

(注1) ()内は加工進捗度である。
(注2) 材料はすべて工程の始点で投入されている。

【金額に関する資料】

直接材料費実際発生額 210円 × 10,000kg = 2,100,000円

解答欄

完成品原価	6,000,000	円
月末仕掛品原価	1,520,000	円
直接材料費総差異	180,000	円 (借方) 差異
<内訳>		
数量差異	80,000	円 (借方) 差異
価格差異	100,000	円 (借方) 差異

生産データ

200	150	1,000	1,000
1,200	1,050	400	200

(1,200)

<完成品>

$6,000 \times 1,000 = 6,000,000$ 円

<月末仕掛品>

直材 @1,600 × 400 = 640,000円
 直労 @2,000 × 200 = 400,000円
 間接 @2,400 × 200 = 480,000円
1,520,000円

<材料費>

① 210円 ② 200円 ③ 2,100,000円 ④ 10,000kg

価格差異 (200円 - 210円) × 10,000kg = Δ100,000円
 数量差異 (9,600kg - 10,000kg) × 200円 = Δ80,000円
 ⑤ 9,600kg (8kg × 1,200)

総差異 Δ180,000円

氏名 _____

簿記の教室 メイブル
2級 工業簿記

確認テスト
～ 第 12 回 ～

採点欄

以下の資料にもとづいて、標準原価計算を採用している当工場における当月の直接労務費総差異、製造間接費総差異をもとめなさい。また、各総差異の内訳も明らかにしなさい。なお不利な差異には借方、有利な差異には貸方と記入すること。

【標準原価カード】

製品 1 個当り			
直接材料費	200円/kg × 8kg =	1,600円	
直接労務費	1,000円/時間 × 2時間 =	2,000円	
製造間接費	1,200円/時間 × 2時間 =	2,400円	
	合計	6,000円	

製造間接費の配賦基準は直接作業時間であり、月間の固定費予算額は 1,540,000 円、基準稼働度は 2,200 時間である。

【生産に関する資料】

月初仕掛品	200個 (75%)
当月投入	1,200個
月末仕掛品	400個 (50%)
売成品	1,000個
(注1) ()内は加工進捗度である。	
(注2) 材料はすべて工程の始点で投入されている。	

【金額に関する資料】

直接労務費実際発生額	980 円 × 2,150 時間 = 2,107,000 円
製造間接費実際発生額	2,700,000 円

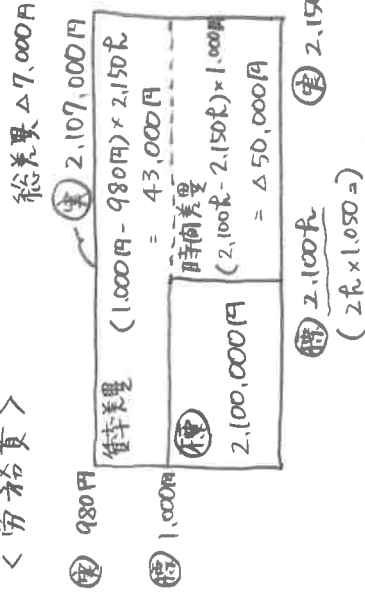
解答欄

直接労務費総差異	7,000 円(借方)差異	製造間接費総差異	180,000 円(借方)差異
<内訳>		<内訳>	
時間差異	50,000 円(借方)差異	予算差異	85,000 円(借方)差異
賃率差異	43,000 円(借方)差異	変動費率差異	25,000 円(借方)差異
		固定費率差異	35,000 円(借方)差異
		操業度差異	35,000 円(借方)差異

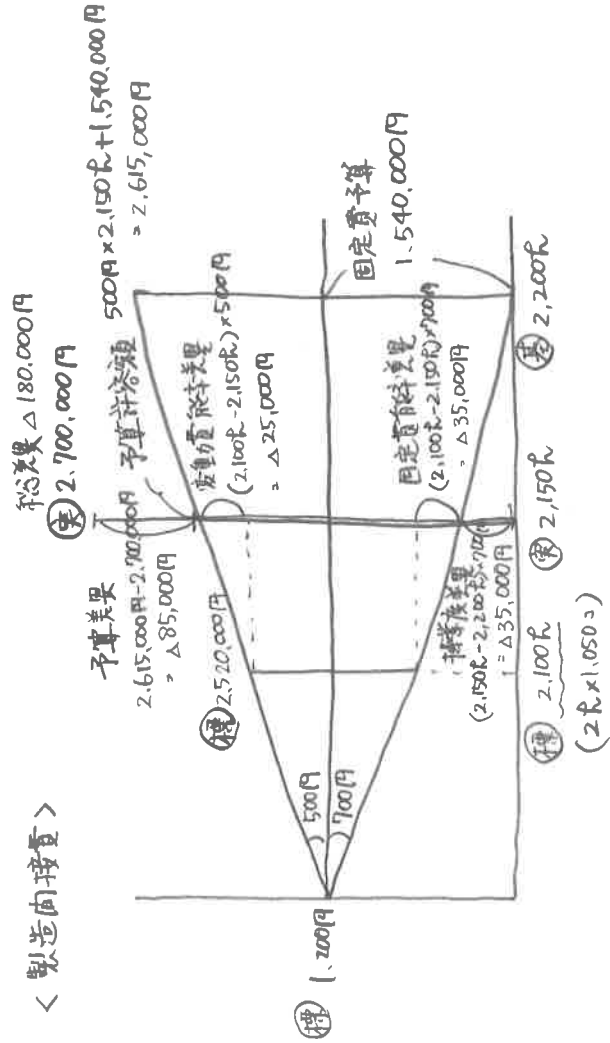
生産日夕

200	150	(1,000)	1,000
1,200	1,050	400	200
			(1,200)

< 労務差異 >



< 製造間接費 >



氏名

簿記の教室 メイプル
2級 工業簿記

確認テスト
～ 第 13 回 ～

採点欄

1. 以下の資料にもとづいて、CVP分析に関する各問に答えなさい。

【資料】

販売単価 1,000 円 製品単位あたり変動費 800 円 固定費 800,000 円

(1) 損益分岐点における販売数量をもとめなさい。

4,000 単位

(2) 目標営業利益を 1,200,000 円とした場合の販売数量をもとめなさい。

10,000 単位

(3) 現在の売上高を 10,000,000 円、損益分岐点の売上高を 4,000,000 円とした場合の安全余裕率をもとめなさい。

60%

2. 以下の 6 ヶ月間の原価データにもとづいて、高低点法により製品単位あたりの変動費と月間の固定費をもとめなさい。

【6 ヶ月間の原価データ】

月	生産量	原価発生額
1 月	2,035 個	2,758,000 円
2 月	1,850 個	2,684,000 円
3 月	2,400 個	2,960,000 円
4 月	2,201 個	2,840,000 円
5 月	2,380 個	2,912,000 円
6 月	1,600 個	2,640,000 円

製品単位あたり変動費

400 円

月間の固定費

2,000,000 円

<CVP分析>

(1 単位)

売上高 1,000

変動費 800

貢献利益 200

固定費 800,000

営業利益 800,000

損益分岐点

(4,000 単位)

800,000

800,000

0

目標営業利益

(10,000 単位)

2,000,000

800,000

1,200,000

安全余裕率

$$\frac{10,000,000 \text{ 円} - 4,000,000 \text{ 円}}{10,000,000 \text{ 円}} = 0.6 \Rightarrow 60\%$$

<図変分解>

最大基準値 : (3) 2,400 コ

最小基準値 : (6) 1,600 コ

$$\text{変動費率} : \frac{2,960,000 \text{ 円} - 2,640,000 \text{ 円}}{2,400 \text{ コ} - 1,600 \text{ コ}} = 400 \text{ 円/コ}$$

$$\text{固定費} : 2,960,000 \text{ 円} - (400 \text{ 円} \times 2,400 \text{ コ}) = 2,000,000 \text{ 円}$$

簿記の教室 メイブル
2級 工業簿記
確認テスト
～ 第 14 回 ～

採点欄

以下の資料にもとづいて、直接原価計算の損益計算書と全部原価計算の損益計算書を作成しなさい。また、固定費調整も行いなさい。

【資料】

販売単価 5,000 円 製品単位あたり変動製造原価 3,000 円 変動販売費 500 円
 固定製造原価 5,000,000 円 固定販売費及び一般管理費 2,000,000 円
 期首製品数量 2,000 個 当期生産量 10,000 個 当期販売量 8,000 個
 期末製品数量 4,000 個
 全部原価計算の場合における期首製品に含まれる固定製造原価 1,000,000 円
 (注) 製品の払出単価の計算は、先入先出法による。

解答欄

直接原価計算の損益計算書

売上高	(40,000,000)
変動売上原価	(24,000,000)
変動製造マージン	(16,000,000)
変動販売費	(4,000,000)
貢献利益	(12,000,000)
固定費	(7,000,000)
営業利益	(5,000,000)

全部原価計算の損益計算書

売上高	(40,000,000)
売上原価	(28,000,000)
売上総利益	(12,000,000)
販売費及び一般管理費	(6,000,000)
営業利益	(6,000,000)

固定費調整

直接原価計算の営業利益	(5,000,000)
期末製品に含まれる固定製造原価	(2,000,000)
期首製品に含まれる固定製造原価	(1,000,000)
全部原価計算の営業利益	(6,000,000)



全部原価

売上高	40,000,000
売上原価	28,000,000
売上総利益	12,000,000
販売費	6,000,000
営業利益	6,000,000

固定製造原価

5,000,000	5,000,000
2,000,000	8,000,000
1,000,000	4,000,000
10,000,000	4,000,000
5,000,000	4,000,000
500	2,000,000
6,000,000	

固定費調整

直接の営業利益	5,000,000
期末製品に含まれる(国)	+ 2,000,000
期首製品に含まれる(国)	- 1,000,000
全部の営業利益	6,000,000

簿記の教室 メイブル
2級 工業簿記
確認テスト
～ 第 15 回 ～

採点欄

本社側に設けられている勘定が「製品、買掛金、減価償却累計額、賃金給料、工場」の場合の本社側の仕訳は、次のとおり。

次の取引について、工場会計を独立させているときの工場側の仕訳を行いなさい。なお、工場側に設けられている勘定は、材料、製造間接費、仕掛品、本社である。

1. 材料 500,000 円を掛で購入した。

材料 500,000 本社 500,000

2. 直接材料として 350,000 円、間接材料として 100,000 円を出庫した。

仕掛品 350,000 材料 450,000
製造間接費 100,000

3. 直接工賃金 280,000 円、間接工賃金 120,000 円を消費した。なお、直接工は直接作業のみ行っている。

仕掛品 280,000 本社 400,000
製造間接費 120,000

4. 当月の工場の減価償却費は 180,000 円であった。

製造間接費 180,000 本社 180,000

5. 完成品 460,000 円を本社の製品倉庫に納入した。

本社 460,000 仕掛品 460,000

1. 工場 500,000 買掛金 500,000

2. 仕訳なし

3. 工場 400,000 賃金給料 400,000

4. 工場 180,000 減価償却累計額 180,000

5. 製品 460,000 工場 460,000